

9月26日 B&W 801D4 D5 比較試聴会

D&M シニアサウンドマスター澤田さん（川又さんと事前の打ち合わせほとんど無し）

席は人数分用意されリスニングポイントに木製の椅子が用意され向かって左が D4、右が D5 のセンターポジション。

・水の音楽（グラスに水を貯めて水滴を落とす音のサンプリング HOYA クリスタル）ピアノやギターなどの楽器だとそれぞれ「この楽器はこうなって欲しいという主観（先入観・思い込み）があるのでそれを排除するため、単純に水滴が水に落ちる「ポチョン」という音の響きを比較。

D5:高音域の伸びや響きが違う。空間の音の粒子が細かく濃密。

・アイスランド出身歌手の Björk の 4 枚目のアルバム「Vespertine」より 6 曲目フロスティ - “Frosti (Interlude)” - 1:41。自身の楽曲をオルゴール演奏にしたもの。

これも「オルゴール」という金属の板をピンで弾（はじ）くという「楽器はこう鳴って欲しい」という先入観を排除した選曲。

D4:極端に言うとも音にまとまりが無い。センターポジションに座っていないからか？

D5:音の出だしから重心の低い音で空間表現が濃密。

澤田さん：中高域のクリアさとか情報量の多さとかアタックの後の空間に広がっていく自然さとかマスキングされたものが無くなっている。これに一番寄与しているのはウーハー。

今回ドライブユニットが変わったのはウーハーのみ。外見では分からないが世界で初めて画期的な磁器回路が使われている。そうするとどうなるか、音を濁すところが無くなり中高域の音の純度が上がる。中高域（ツイーター&スコーカー）は変わらないが、わずかに違うのがツイーターの防護ネットのデザインで網目が若干大きくなっている。後はキャビネットの補強がされて金属パーツが増えており重量で 6 %位増えている。

川又さんより今回のリスニングポジションは川崎にある D&M のオーディオルームとスピーカーの位置&距離がほぼ同じとの事。

・次はウーハーの違いの体感。アフリカのシャンベというパーカッションの演奏 CD（非売品）。

D4:もうちょっと音にまとまりが欲しい。途中からチンチンと小型の鐘（？）を鳴らす甲高い音がするが演奏に溶け込めて無い。（D4 ってこんな感じだったっけ？という個人的印象）

D5:音が空間に消えゆく感じがいい。トランジェントも音の分離度も若干 D4 に勝る（音圧的に）

澤田さん：(川又さんが 10 年前 D3 から D4 になった時にウーハーがロハセルからエアロホイルに変わって、D5 で 3 世代目になるが何が違ったのか？と聞かれ) キャビネットの補強の違い、ウーハーは裏のアルミプレートに固定されている。ド〜ンと鳴っているウーハーはアルミプレートが受け止めている (キャビネットには固定されていない)。アルミプレートは D4 から D5 で厚さが倍になっている。

・アコースティックギターとフレットレスベースのデュオの CD。Erik Mongrain 「EQUILIBRIUM」。

D4: カッティングが鋭いが余韻成分が少なめ

D5: 一方余韻成分たっぷりでふくやか。特に足の裏で床の重低音の振動が感じられた。

川又さんが 10 年前のウーハーの素材がロハセルからエアロホイルに変わって大振幅に対する D5 の解説を曲の後に澤田さん聞くので考えておいて下さいとの前置きあり。

・溝口肇の「世界の車窓から」チェロとハーブ (先ほどのフラットベースの低音の違いに注目)

D4: D5 を聴かなければこれはこれで優秀 (と思う。センターでないので分からないが)。

D5: 出だしのハーブの音色余韻が違う。チェロの深みというか低音域のグラデーションも見事。

澤田さん：(ウーハーの大振幅に対応するためにキャビネットを補強した他の理由は？との川又さんの追加質問) 「静かなウーハーを作る」。馬蹄形のキャビネットは前や斜め前からの圧力に強い。だが一番後ろは切れているのでたわむ。D5 は馬蹄形の後ろに太いアルミのアングルをいれて、しならないように固めてしまっている。これがフラットベースで「ド〜ン」といった時のサウンドになっている。それから今の曲 (「世界の車窓から」) で見せる空間情報の表現は磁器回路の改良によってウーハーがマスキングしていた所が無くなっている。中高域のユニットは変わっていないがマスキングが無くなった事により、本来持っていた音が出ているのが大きな違い。

・ダイアナ・クラールとウッドベースのデュオ「MY LOVE」(やっとなのジャンル女性ボーカル)

D4: うちの B&W800Signature より低音の表現が腰高か？ダイアナ・クラールのボーカルは余韻成分たっぷり。

D5: 落ち着いた重心が低い音。微妙なところでダイアナ・クラールのボーカルが艶 (なま) めかしい。一定に響く指を「パチ〜ン」と鳴らす音に表情がある。

・シェリル・ベンティーンとドラムのデュオ「ビギン・ザ・ビギン」

https://www.youtube.com/watch?v=K5StkdCGPzQ&list=RDK5StkdCGPzQ&start_radio=1

D4:これは初めて聴くシェリル・ベンティーンの「Begin The Beguine」だったので基準にする。

D5:やはり音の深み、緻密さが違う。落ち着いた低音。余韻が違う。

澤田さん：(ボーカルの定位の違いって何なんですか？の質問に) D4、D5 ここから (中高域) 上は基本全く一緒。違うのは (ツイーターの) 金網の開口率が高くなったのと目の並び (デザイン)。ある周波数帯で改善しており端で聴いていてもボーカルの立体感が違う。ネットワークは後ろのアルミ板に固定されており、D4 のアルミ板を叩く (コーン、コーンと音がする) 一方 D5 のアルミ板を叩く (コッ、コッと響かない)。これがボーカルの子音の違いに関係している。

・バンドネオン曲 (曲名&アーティスト失念)

D4:これも基準になるので D4 の音を覚える。

D5:余韻の滞空時間が D4 より長い (パーカッション)。

ダイナミック・オーディオ 5555 店建設時に 7F は 0A フロア、このままではフローティングフロアにスピーカーを置いても絶対いい音は出ないとゴムハンマー持って施工段階で丸の内の大成建設の事務所に掛け合ってゴムハンマーで床を叩きまわって実際に納得してもらい、今のスピーカーが置いてある側の下の鉄板のスラブに 10 cm 厚でコンクリ流し込み、計算すると 8.7t 流し込んだとの事。

・ゴジラのテーマ曲 (サントラ盤のオーケストラ アビーロードスタジオで収録。他のオーディオショップではまず使われない曲)

D4:フルオーケストラをまず聴く。

D5:音が磨かれている。(迫力に圧倒されて正しい判断ができない (苦笑))

・ドボルザークの「ユーモレスク」 ボストンシンフォニー チェロはヨー・ヨー・マ

D4:まず基準曲として聴く

D5:ヨー・ヨー・マの弦が滑らか。

アディショナルタイム

D4 と D5 をシングルワイヤーで聴いていたが D5 をシングルアンプとバイアンプの違いを聴く。

大貫妙子「Pure Acoustic」より「横顔」

https://www.youtube.com/watch?v=etiUpHsENKA&list=RDetiUpHsENKA&start_radio=1

シングルワイヤリング D5 : 「おおっ、うちの B&W Signature800 といい勝負だ。(すいません生意気言っています)。

バイアンプの D5 : クリア！音が瑞々しい！ディテールの隅々まで見通せる。ぜいたく！

それにしてもうちの B&W Signature800 はペアで 360 万円。B&W 801D5 がペアで 924 万円から。

お高くなりましたね。

川又さん、澤田さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

P. S. 皆さんが帰った後に家にもある CD でバイアンプの B&W 801D5 を楽しみました。